

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 26 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01236

研究課題名（和文）16世紀前後の日本と東アジアの異文化交流文学史をめぐる総合的比較研究

研究課題名（英文）A History of Literature Relating to Cultural Exchanges in Japan and East Asia around the 16th Century

研究代表者

小峯 和明（KOMINE, KAZUAKI）

立教大学・名誉教授・名誉教授

研究者番号：70127827

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,300,000円

研究成果の概要（和文）：課題の全体を6項目に分類し、日本と東アジアの各地域別に一次資料と研究資料とに区分してリストを作成した。資料調査は長崎歴史博物館、南方熊楠顕彰館等々、海外は韓国の東国大学図書館、高麗大学図書館などで実施した。資料集としてリストの暫定版をアップし、年度別にニュースレターを発行した。国際会議は中国人民大学を拠点にワークショップを開催し、最終年度に立教大学で2日間ハイブリッド形式による国際シンポジウムを開催。内外の多彩なメンバーが集まり、視聴者は300人を越え、活発な議論が交わされた。韓国の資料調査に合わせてソウル大学、高麗大学で講演会を開催した。これらをもとに論文集を文学通信社より公刊の予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、近代化の始発期とみなせる16世紀前後の異文化交流の動態を文学史の基軸にすえることで、既存の文学史を再編成し、現在と未来にわたる国際化時代の文学・文化動向の一つの指針を提起することができた。従来の鎖国観に象徴される一国内の限定的文化史観では、もはや今日の国際化した学術界の潮流に対応することは難しい情勢にある。特に近隣の東アジアの漢字漢文文化圏を焦点とする異文化交流の文学史観こそが今後の動向に大きく関わるはずであり、その前提に歴史、宗教思想、美術など人文学総体の学際的な協同はもとより、東アジア各地域相互の学術交流や連携体制を確立した点でも、今後の範型を提示することができたと思われる。

研究成果の概要（英文）：The entire task was classified into six items, and a list was prepared by dividing it into primary data and research data for each region in Japan and East Asia. Data surveys were conducted at the Nagasaki Museum of History and the Minagata-Kumagusu Museum, and overseas at Dongguk University Library and Korea University Library in Korea. The provisional edition of the list was uploaded as a data book and a newsletter was published by year. The International Conference on Academic Affairs held a workshop based at Renmin University of China and held a two-day hybrid international symposium at Rikkyo University in its final year. International symposium attracted a variety of researchers from both home and abroad, with more than 300 viewers and lively discussions were held. We also held lectures at Seoul National University and Korea University to coincide with our research in Seoul. We also plan to publish the results of workshops by Bungaku-Chusin Publishing Company.

研究分野：日本古典文学

キーワード：異文化交流文学史 東アジア 16世紀前後 幻想領域 資料学

1. 研究開始当初の背景

近年、未曾有の少子高齢化の社会問題とあいまって、国際化の進展が喫緊の課題となっており、そのような社会情勢に応じて人文学及び文学研究に何ができるかが問われている。国際化とは海外の諸国、諸地域との文化交流の促進、深化にほかならず、多文化共存社会を構築する方が切実にもとめられる。国際交流は政治経済の次元に止まらず、学問、芸術、宗教等々の多種多様な文化交流による異文化理解と協調こそが推進されなければならない。日本文学の研究がいかにそのような国際化に寄与しうるか、避けて通れない重要な課題となるはずだが、既存の国文学界の対応はきわめて緩慢である。

代表者はすでに2000年代から東アジアを主とする「異文化交流文学史」の構築を課題とし、折りをみて論考を公表している。つとに「キリシタン文学と仏伝 異文化交流の表現史」(『文学』岩波書店、2001年)で「異文化交流文学」の視座を提起しており、一貫した東アジア文学圏構想の問題意識のもとに研究を推進している。2000年度、立教大学日本学研究所の創設にともない、史学と文学がタイアップして共同研究を推進する体制が整い、特に対外関係史の研究者との交流が「異文化交流文学」の着想を強くもたらしたと言える。その過程で史学と文学の方法論の相違にも視野が及び、とりわけ文学系資料に、想像され幻想化された虚構の異文化交流の事例が少なからずあり、領域化の可能性に満ちていることに気付かされた。しかもそれらは史学からは排除され、文学研究からも正当な位置づけを与えられていないことをも認識せざるをえず、これらの領域化をいかに具現するかが課題となってきた。

また、東アジア研究路線の基軸として、朝鮮古典、ベトナム古典など個別の東アジア研究会を同時並行で展開しており、具体的な資料にもとづいた解説を進め、その幾ばくかは成果を公刊しつつある(『新羅殊異伝』『海東高僧伝』訳注・平凡社東洋文庫、2011年、2016年)。同時に個別の問題意識からの成果として、編著『今昔物語集を読む』(吉川弘文館、2008年)で従来の視点と異なる「異文化交流」の角度から『今昔物語集』をあらたに読み替える視座を実験的に提示した。また、本研究の一つの核になる対外戦争に関しては、「侵略文学」というキーワードのもとに検証を進め、「侵略文学」の位相「蒙古襲来と託宣・未来記を中心に、異文化交流の文学史をもとめて」(『国語と国文学』2004年8月)を公表し、さらに立教大学の最終講義の講演録『異文化交流の文学史をめざして 円仁の巡礼記を読む・東アジア文学圏の構想』(私家版2013年)でも、「異文化交流文学史」の全体的な研究構想を披瀝している。円仁の『巡礼記』は遣唐使研究の第一級史料として史学で取り扱われるのが通例であるが、同時に優れた旅行記、求法巡礼記、漢文の日記文学でもあり、その表現形象面を探る研究はいまだ十分になされてはいない。史料ではなく文学として読まれるべき提言にほかならない。

あるいは、韓国の建国大学での講演をもとにする「往く人、来る人 東アジア・幻想の異文化交流」(『立教大学日本学研究所年報』9号、2012年3月)において、本研究の柱ともなる「幻想の異文化交流文学」について初めての提言を試みているが、いまだ個々の研究は提言に止まっているものが少なくない。これらをさらに拡充させて総合的な文学史として構築しようとしており、既知の資料も「異文化交流文学史」から読み替え、あらたな文学史像を記述することができるし、同時に埋もれた未知の文学資料を発掘しうる可能性にも満ちている。研究の方向性はおのずと形作られてきたと言える。

2. 研究の目的

「異文化交流文学史」とは、今日の国際化時代に応じて関心の高まっている多様な異文化との交流を通して生まれ、享受、再生された文学の総体を指す。ことに16世紀前後(日本の中世・近世の転換期)は「大航海時代」と言われる地球規模の文化交流が活発化した時代であり、アジアや日本がキリシタンの宣教師らによってもたらされた西洋文化と初めて接触する近代の始発期として特筆される。文化交流というと、善隣友好のイメージが強いが、一方で16世紀末期は日本の戦国乱世を統一した豊臣秀吉が朝鮮侵略を断行し、中国が朝鮮支援のために参戦、後の明清交替にも波及する東アジア史上の大事件であった(文禄慶長の役、壬辰丁酉倭乱)。この時に拉致された多くの朝鮮人陶工が九州を中心に陶芸文化を築いたように、侵略による対外戦争もまた文化交流として見のがせない。そこから生み出された文学世界も大きな意義を持つはずであるが、江戸期の朝鮮軍記や朝鮮の述作等々、近年ようやく注目されつつある段階で、まだその全体像が解明されたとは言いがたい。

本課題は近代の始発を担った16世紀を中心にその前後にも視野をひろげ、日本と東アジアの「漢字漢文文化圏」の一環として、「異文化交流文学史」を基礎的な比較資料学から積み上げ、絵画造型なども併せてその全体像を究明し、あらたな文学史を再編成することを目的とする。

(1) 日本と東アジアの「異文化交流文学史」に関わる資料群の確定

(2) 総合的な資料調査収集による全体把握

(3) 研究会の組織化と活動による総合目録のデータベース化と貴重資料の紹介

(4) 国際会議の開催と論文集・資料集の公刊

3. 研究の方法

(1) 異文化交流文学史 という領域の確立

異文化交流文学史 の範疇はひとまず以下の通りとする。

(A) 日本の遣明使、朝鮮通信使、朝鮮・ベトナムの燕行使、中国の琉球冊封使等々の外交使節をめぐる文学(使節の残した記録・日記類から虚構の説話、物語、絵画資料類、及び後世の遣唐使神話等々)。

(B) 旅行記、見聞記、渡海記、漂流記、流刑・配流記類。

(C) 交易、倭寇をめぐる文学(商団、物流、輸出入物、略奪、海賊などに関連する記録類から説話、物語、絵画資料類)。

(D) 五山など仏教やキリシタンを主とする宗教をめぐる文学(布教・伝法・求法・巡礼記及び僧伝、縁起類、キリシタン文学・排耶書、絵画資料類)。

(E) 蒙古襲来や秀吉の朝鮮侵略(壬辰倭乱)、薩摩の琉球侵略、明清交替、蝦夷侵略など対外戦争をめぐる文学(亡命、拉致なども含む)。

(F) 楊貴妃や白楽天の日本渡来、百濟琳聖太子渡来の大内氏始祖伝承、あるいは渡唐天神など、往く人、来る人の幻想・架空の往還、交流をめぐる文学。お伽草子や語り物などにみる異人、異国、異域をめぐる文学。

これらは相互に関連し合い、有機的に関わり合う。史実を基調とする記録や実録類から口頭伝承や説話、物語、漢文小説類、語り物、絵巻類等々を合わせ、複合的重層的に検証する。これら諸位相を総合的に検証することで、既成のジャンル論による文学史を相対化し、あらたな異文化交流文学史 の構築をめざす。

(2) 異文化交流文学史 の資料学の確立

上記の範疇のもとに日本及び東アジアの各地に赴いて資料調査や実地踏査を行い、抽象的観念的でない実体的、統合的な資料学として確立する。特に従来の研究で視野の及んでいない地誌などの諸分野、領域にも取り組む。

(3) 東アジア文学圏の一環としての相互比較研究

異文化交流文学 の様相を東アジア文学圏の一環に位置づけ、たとえば漂流記では朝鮮の『漂海録』(和訳本『唐土行程記』)、日本の『安南漂流記』など多面的に交差させて読み合わせる。秀吉の朝鮮侵略など同一の対象を日本、朝鮮、中国の相互から比較検証し、乱後の影響の諸相をとらえる。あるいは、キリシタン文学と反キリシタン文学(排耶書)とを突き合せて双方が排他的に内在する思想表現を抽出し、さらに中国の漢訳キリシタン文学と比較検証する等々、可能な範囲で多面的に考察を展開する。

(4) 多様な表現媒体や表象文化もあわせた総合的な文学観の確立

絵画、造型など表象文化も対象とし、口頭伝承や身体芸などもあわせて文字文献とも比較検証し、統合的な文学観を確立する。

(5) 異文化交流文学 による文学史の再編

異文化交流文学 を基軸とすることで既存の古典を読み替え、従来正当な研究対象とならず無視ないし排除されていたものや未知の埋もれた文学資料を発掘し、統合化を進め、従前の文学史を再編成する。

4. 研究成果

(1) 異文化交流文学史 のリスト作成と資料の調査・収集

異文化交流文学史 全体の範疇を、上記の(A)~(F)の項目ごとに中国・朝鮮半島・琉球・日本・ベトナムの各地域別に一次資料と研究資料とに区分してリストを作成した。

資料調査に関しては、国内は沖縄県立博物館及び県立図書館の琉球資料、長崎歴史博物館、市立図書館、福江市立図書館・博物館、天草コレジオ館等々のキリシタン資料、府立中之島図書館の朝鮮古典、京都大学の東南アジア研究所のベトナム漢文資料、南方熊楠顕彰館所蔵の南方熊楠旧蔵書、紀伊田辺の法輪寺大蔵経、海の見える杜美術館の絵巻などの調査と資料収集を行った。海外はコロナ禍の影響でようやく最終年度に韓国ソウルの東国大学図書館、ソウル大学奎章閣、高麗大学図書館などで朝鮮古典の関連資料調査を実施することができた。

(2) 研究会の組織化と継続

異文化交流文学史 の資料集作成のための研究会を組織し、年数回の会合を開催し、その都度資料収集をもとにそこからみえる問題点の検証を行った。分野が多岐にわたり、資料が膨大になり、入力作業に携わる人員不足もあり、分類法を幾度も改訂する試行錯誤を繰り返し、完全な完成にまでは至らなかったが、とりあえず現段階での成果を集約して暫定版としてネットにアップした。以後も継続して、異文化交流文学史 資料集を公刊できればと考えている。また、本研究会を軸に分担者も加わって、年度ごとに活動報告をかねたニュースレターを発行した。

(3) 国際シンポジウム、ワークショップの企画、開催

コロナ禍の影響で初年度はほとんど活動できず、ようやく次年度の2021年11月に北京の中国人民大学を拠点にオンラインで代表者と分担者を中心に日本、中国、ベトナムのメンバーもコメントレーターとして参加し、日本と東アジアの古典を中心に『異文化交流文学史』をテーマにワークショップを開催した。予想外に反響が大きく、視聴者は百人近いものとなった。

最終年度の2022年11月に立教大学でオンライン併用のハイブリッド形式による「16世紀前後の日本と東アジアの『異文化交流文学史』」の国際シンポジウムを2日間にわたって開催した。アメリカ、フランス、中国、韓国、ベトナムの文学、歴史学、民俗学、宗教学等々の分野から50人を越える内外の多彩なメンバーが集まり、4つの講演、5つのセッションのシンポジウム、ラウンドテーブルを展開し、視聴者は三百人を越える盛会となった。浩瀚多岐に及ぶ『異文化交流文学史』の意義を追究する新見があいつぎ、活発な議論がかわされ、おおきな成果を収めることができた。

また、本科研の最初にして最後の海外出張で、ソウル大学、高麗大学で資料調査に合わせて『異文化交流文学史』を課題に講演会を開催、ともに反響が大きく、以後定期的に交流を継続させる取り決めを交わした。

(4) 論文集と資料集の編集、公刊

以上の成果をふまえて、立教大学でのシンポジウムを主体に『日本と東アジアの『異文化交流文学史』』と題して、文学通信社より50数名からなる論文集を公刊する予定で、現在編集を進めている。また、北京の中国人民大学や韓国のソウル大学、高麗大学で行ったワークショップや講演会などの成果も合わせて、順次まとめて公刊する計画である。一方、資料集は完成次第、『立教大学大学院日本文学論叢』などの媒体に分載して掲載できればと考えている。また、1,2年内には研究代表者の単独の『幻想の異文化交流文学史』をめぐる単著の刊行も予定している。

*なお、コロナ禍の影響で初年度前半はほとんど活動できなかったが、秋口からオンラインに切り替え、資料集作成の作業部会をはじめ、各種研究会の大半はオンラインで実施する体制に切り替えた。以後、オンライン併用のハイブリッド方式に拠り、臨機応変の体制で対処する方法が定着したといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小峯和明 | 4. 巻 82 |
| 2. 論文標題 日本における東アジア学の現状と課題 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 韓国檀国大学校東洋学研究院『東洋学』 | 6. 最初と最後の頁 265～274 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小峯和明 | 4. 巻 70・5 |
| 2. 論文標題 病の発見 - 四大不調から鬼病へ・ 仏教医学 の視界 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本文学協会『日本文学』 | 6. 最初と最後の頁 15～26 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小峯和明 | 4. 巻 70・1 |
| 2. 論文標題 山下久夫・斎藤英喜編『日本書紀一三〇〇年史を問う』 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本文学協会『日本文学』 | 6. 最初と最後の頁 54～55 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 鈴木彰 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 すれ違いを語る歴史叙述 漂流記・漂流記録にみる小さな異文化交流 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 異文化交流文学史 ニューズレター | 6. 最初と最後の頁 4～6 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 鈴木彰 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 異文化交流の文学的小景 漂流記にみる「仕形」を中心として | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 異文化交流文学史 ニュースレター | 6. 最初と最後の頁 12～15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 染谷智幸 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 日韓の誤解と古典の誤訳ー: 井原西鶴『好色一代男』を中心に | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 東アジア比較文化国際会議日本支部『東アジア比較文化研究』 | 6. 最初と最後の頁 30～44 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 染谷智幸 | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 日韓古典の交流・比較・実践研究の方法 - その座標軸を求めて | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 茨城キリスト教大学『学術センター研究シリーズ』 | 6. 最初と最後の頁 24～30 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 染谷智幸 | 4. 巻 11 |
| 2. 論文標題 空井伸一著『「国文学」の批判的考察 江戸のテキストから古典を考え直す | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『文学通信』 | 6. 最初と最後の頁 48～49 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 染谷智幸 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 16・17世紀における中朝日の古典小説とその背景としての交易・交流 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 異文化交流文学史 ニュースレター | 6. 最初と最後の頁 16～19 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 染谷智幸 | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 鄭敬珍著『交叉する文人世界 朝鮮通信使と兼葭雅集図と東アジア近世』 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 法政大学『国際日本学』 | 6. 最初と最後の頁 99～106 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 河野貴美子 | 4. 巻 98・5 |
| 2. 論文標題 空海の文事を通してみる平安朝文学史の一考察 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 東京大学国語国文学会『国語と国文学』 | 6. 最初と最後の頁 3～17 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小峯和明 | 4. 巻 9 |
| 2. 論文標題 響文社 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『アナホリッシュ国文学』 | 6. 最初と最後の頁 41～54 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小峯和明 | 4. 巻 52・15 |
| 2. 論文標題 予言を読む 中世日本の未来はいかに訪れたか・ 聖徳太子未来記 を中心に | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『ユリイカ』 | 6. 最初と最後の頁 72～81 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 小峯和明 | 4. 巻 55 |
| 2. 論文標題 説話文学会五十五周年記念・北京特別大会の報告 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 説話文学会説『話文学研究』 | 6. 最初と最後の頁 1～4 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小峯和明 | 4. 巻 55 |
| 2. 論文標題 森正人著『古代心性表現の研究』・『龍蛇と菩薩』書評 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 説話文学会説『話文学研究』 | 6. 最初と最後の頁 177～182 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 小峯和明 | 4. 巻 113 |
| 2. 論文標題 コロナ禍の『日本書紀』千三百年 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 早稲田大学『わせだ国文ニュース』 | 6. 最初と最後の頁 1～1 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 染谷智幸 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 日韓の誤解と古典の誤訳ー：井原西鶴『好色一代男』を中心に | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 東アジア比較文化国際会議日本支部『東アジア比較文化研究』 | 6. 最初と最後の頁 30～44 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 染谷智幸 | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 日韓古典の交流・比較・実践研究の方法 - その座標軸を求めて | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 茨城キリスト教大学『学術センター研究シリーズ』 | 6. 最初と最後の頁 24～24 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 染谷智幸 | 4. 巻 69・11 |
| 2. 論文標題 空井伸一著『「国文学」の批判的考察 江戸のテキストから古典を考え直す』 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 日本文学協会『日本文学』 | 6. 最初と最後の頁 48～49 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 染谷智幸 | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 鄭敬珍著『交叉する文人世界 朝鮮通信使と兼葭雅集図と東アジア近世』 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 法政大学『国際日本学』 | 6. 最初と最後の頁 99～106 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 河野貴美子 | 4. 巻 192 |
| 2. 論文標題 空海の「文」をめぐる一考察 『遍照發揮性靈集』にみる実践と思考 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 早稲田大学国文学会『国文学研究』 | 6. 最初と最後の頁 16～29 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小峯和明 | 4. 巻 71-10 |
| 2. 論文標題 キリシタン文学の窓 - 活版印刷とコレジオ・声と文字の往還 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本文学 | 6. 最初と最後の頁 12～23 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 小峯和明 | 4. 巻 57 |
| 2. 論文標題 ベトナムの漢文説話『嶺南セツ怪』を読むために | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 説話文学研究 | 6. 最初と最後の頁 1～4 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小峯和明 | 4. 巻 71 - 8 |
| 2. 論文標題 葛綿正一『宇治拾遺物語を読む 中世説話論』 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本文学 | 6. 最初と最後の頁 48～50 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 8件）

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 小峯和明 |
| 2. 発表標題 日本古典にみる差別 『今昔物語集』の窓から |
| 3. 学会等名 韓国外国語大学（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小峯和明 |
| 2. 発表標題 東アジアの 漢字漢文・文化圏 日本研究の国際化とは何か・『東アジア文化講座』刊行に寄せて |
| 3. 学会等名 早稲田大学・角田柳作記念国際日本研究所・シンポジウム（国際学会） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 小峯和明 |
| 2. 発表標題 幻想の異文化交流文学 往く人・来る人 |
| 3. 学会等名 中国人民大学（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 小峯和明 |
| 2. 発表標題 湖南世界と日本文学 水の文学 屈原・湘浦 二妃・桃花源 |
| 3. 学会等名 湖南師範大学（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 河野貴美子 |
| 2. 発表標題 『日本靈異記』の「文」とその文学史的意義、International Symposium Images from the Past: Intertextuality in Japanese Premodern Literature |
| 3. 学会等名 イタリア、ヴェネツィア大学(国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 河野貴美子 |
| 2. 発表標題 中国古代典籍の流伝・重組・変異 以空海《秘密漫荼羅教付法伝》為中心 |
| 3. 学会等名 北京大学国際漢学家研修基地、中華文明伝播史系列工作坊 東亜漢籍伝播研究討論会(国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 河野貴美子 |
| 2. 発表標題 日本伝存資料を通してみる唐代典籍文化の統一性と多様性 |
| 3. 学会等名 東方学会(国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 河野貴美子 |
| 2. 発表標題 Heian kanshibun in early modern Japan: Hayashi Gahos Honcho ichinin issyu |
| 3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies(国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 小峯和明 |
| 2. 発表標題 絵巻への招待 百鬼夜行絵巻 |
| 3. 学会等名 台湾大学日本研究センター（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 小峯和明 |
| 2. 発表標題 日本における東アジア学の現状と課題 漢字・漢文文化圏 から |
| 3. 学会等名 韓国檀国大学校東洋学研究院（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 染谷智幸 |
| 2. 発表標題 韓国の和諍思想と現代のパンデミック 今求められる大同の意志と方法 |
| 3. 学会等名 韓国檀国大日本研究所HK事業団国際学術大会（国際学会） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 染谷智幸 |
| 2. 発表標題 日韓古典の交流・比較・実践研究の方法 - その座標軸を求めて |
| 3. 学会等名 日韓古典会（国際学会） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 河野貴美子 |
| 2. 発表標題 雑誌『禹貢』を通して考えるポストコロナ期の人文学 |
| 3. 学会等名 早稲田大学総合人文科学研究センター主催「第14回東アジア人文学フォーラム」(国際学会)(国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

〔図書〕 計20件

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小峯 和明 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 文学通信 | 5. 総ページ数 460 |
| 3. 書名 東アジアに共有される文学世界 | |

| | |
|--------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 ハルオ・シラネ、鈴木 登美、小峯 和明、十重田 裕一 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 岩波書店 | 5. 総ページ数 512 |
| 3. 書名 作者 とは何か | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 小峯和明、染谷智幸、鈴木 彰、水谷隆之、水口幹記、空井伸一、岡 美穂子、高橋博巳、島村幸一、金 英順、鄭 敬珍、角南聡一郎、宮崎晶子、菊地章太、宮腰直人、杉山和也、朴 知恵、菊地 仁、志賀市子、小俣喜久雄 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 文学通信 | 5. 総ページ数 447 |
| 3. 書名 染谷智幸編『はじめに交流ありき - 東アジアの文学と異文化交流』(「東アジアの文化と文学」) | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 小峯和明、中村春作、小川豊生、岩本篤志、井上 亘、楊 暁捷、井上泰至、司 志武、原 克昭、Matthias Hayek、張 哲俊、趙 ウネ、馬 駿、千本英史、山下克明、神田千里、大西和彦、高 陽、伊藤 聡、佐野愛子 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 文学通信 | 5. 総ページ数 458 |
| 3. 書名 小峯和明編『東アジアに共有される文学世界 - 東アジアの文学圏』（「東アジアの文学圏」） | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 ハルオ・シラネ、小峯和明、北條勝貴、宮崎順子、陸晚霞、錦 仁、佐伯真一、野田研一、李愛淑、堀川貴司、多田伊織、井戸美里、宮崎法子、天野雅郎、平松隆円、小山弓弦葉、堀口悟、崔京國、Nguyen Thi Lan Anh、渡辺憲司 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 文学通信 | 5. 総ページ数 430 |
| 3. 書名 ハルオ・シラネ編『東アジアの自然観 - 東アジアの環境と風俗』（「海と島の文学誌」） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 ハルオ・シラネ、小峯和明、アナ・M・シールズ、佐々木孝浩、荒木 浩、トークイル・ダシー、李成市、渡部泰明、スーザン・ポイントン、高岸 輝、仲町啓子、竹本幹夫、児玉竜一、金文京、鈴木俊幸、長島弘明、商 偉、鈴木美穂子、フランク・バルメリ、ドロテア・フォン・ミュッケ | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 岩波書店 | 5. 総ページ数 483 |
| 3. 書名 ハルオ・シラネ、鈴木登美、小峯和明、十重田裕一編『 作者 とは何か - 継承・占有・共同性』（「 偽書 の位相 - 擬作の回路・憑依する作者」） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 鈴木靖民、河野貴美子、端野晋平、高久健二、河内春人、田中史生、廣瀬憲雄、小林孝秀、中野高行、田中史生、河内春人、河上麻由子、橋本 繁、三上喜孝、林部 均、小林孝秀、荊木美行、河上麻由子、中野高行 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 八木書店 | 5. 総ページ数 488 |
| 3. 書名 高久健二・田中史生・浜田久美子編『古代日本対外交流史事典』（「漢籍の受容と交流」） | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 小峯和明、河野貴美子、趙超、黒田彰、三角洋一、陸晚霞、金英順、高松寿夫、三浦雅博、後藤昭雄、項青、Michael Geoffrey Watson、金徳均、雋雪艶、楊昆鵬、趙秀全、顧永新、劉新萍 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 上海遠東出版社 | 5. 総ページ数 317 |
| 3. 書名 雋雪艶・黒田彰主編『孝文化在東亜の伝承和発展』（「從《三教指帰》及《三教指帰注集》看《孝経》的受容」） | |

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小峯 和明 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 青春出版社 | 5. 総ページ数 240 |
| 3. 書名 図説 神さま仏さまの教えの物語 今昔物語集 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 野田研一、赤坂憲雄、結城正美、波戸岡景太、小谷一明、奥野克巳、山田悠介、中川僚子、小峯和明 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 玉川大学出版部 | 5. 総ページ数 196 |
| 3. 書名 フィールド科学の入口 文学の環境を探る（「 災害文学史 の構築をめざして 環境文学 論の道程」） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 小峯和明、金 文京、石井公成、李 銘敬、馬 駿、小川豊生、小島裕子、野村卓美、渡辺麻里子、陸 晚霞、吉原浩人、周 以量、何 衛紅、劉 曉峰、染谷智幸、樋口大祐、米田真理子、金 英順、グエン・ティ・オワイン、近本謙介 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 文学通信 | 5. 総ページ数 366 |
| 3. 書名 説話文学研究の最前線 説話文学会55周年記念・北京（「『釈氏源流』の伝本をめぐって」） | |

| | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 著者名 染谷 智幸 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 文学通信 | 5. 総ページ数 448 |
| 3. 書名 はじめに交流ありき | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 上島 享、堀 裕、勝浦令子、久保智康、劉曉峰、河野貴美子、横内裕人、手島崇裕、小川豊生、田中智誠、菊地章太、岡美穂子 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 吉川弘文館 | 5. 総ページ数 324 |
| 3. 書名 佐藤文子・上島享編『日本宗教史 4 宗教の受容と交流』（「儒教の伝播と受容 古代・中世」） | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 金 文京、河野貴美子、大西克也、李 成市、古屋昭弘、鄭 光、明木茂夫、笹原宏之、荒川慎太郎、入口敦志、遠藤織枝、宇都宮啓吾、張 景俊、吉田 豊、Nguyen Thi Oanh、佐藤晴彦、杉山 豊、嶋尾 稔、西村浩子、陳 力衛 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 文学通信 | 5. 総ページ数 450 |
| 3. 書名 金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか：東アジアの漢字漢文文化圏』（「日本における中国漢籍の利用」） | |

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小峯和明著・金英順訳 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 ソウル大学出版文化院 | 5. 総ページ数 309 |
| 3. 書名 遣唐使と外交神話『吉備大臣入唐絵巻』を読む | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 稲葉継陽、清水克行、小峯和明、小熊博史、福田アジオ、佐藤公美、久留島典子、福田千里、池享、八巻孝夫、則竹雄一、武井弘一、保立道久、藤本正行、人間田宜夫 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 勉誠出版 | 5. 総ページ数 272 |
| 3. 書名 村と民衆の戦国時代史（「戦国の藤木史学を往く - 文学研究の小ケイから」） | |

| | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 川瀬巴水とその時代を知る会、染谷 智幸 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 文学通信社 | 5. 総ページ数 160 |
| 3. 書名 川瀬巴水探索 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 小林 ふみ子、染谷 智幸、市川寛明、岩田和子、大木康、金谷匡高、金美眞、呉翠華、高永爛、小林ふみ子、鄭敬珍、仙石知子、高村雅彦、福寛美、藤木直実、田中優子、土田牧子、山田恭子 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 文学通信 | 5. 総ページ数 456 |
| 3. 書名 東アジアの都市とジェンダー（「東アジアの都市とジェンダー過去から問い直す」） | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 河添房江、皆川雅樹、河野貴美子、河内春夫、菅波正人、大塚紀弘、梅沢恵、松永和浩、川本慎自、関屋俊彦、川戸貴史、高島裕之、山崎覚士、関週一、向正樹、塚本磨充、久保智康、田中圭子、小山順子、西谷功、荒木浩 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 勉誠出版 | 5. 総ページ数 296 |
| 3. 書名 「唐物」とは何か（「平安漢文学からみた唐物 文具を中心として」） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Carolina Negri、Pier Carlo Tommasi、Kimiko Kono、Ivo Smits、Giuseppe Giordano、Moriyuki Ito、Simone Muller、Cristian Pallone、Matthew Chudnow、Noriko Yamashita、Matilde Mastrangelo、Aldo Tollini | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 Edizioni Ca'Foscari | 5. 総ページ数 185 |
| 3. 書名 Images from the Past: Intertextuality in Japanese Premodern Literature (「Nihon ryoiki: Its "Letters", and their Relevance for the History of Literature」) | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---------------------------------|----|
| 研究分担者 | 鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA) (40287941) | 立教大学・文学部・教授 (32686) | |
| 研究分担者 | 染谷 智幸 (SOMEYA TOMOYUKI) (90316498) | 茨城キリスト教大学・文学部・教授 (32101) | |
| 研究分担者 | 河野 貴美子 (KONO KIMIKO) (20386569) | 早稲田大学・文学学術院・教授 (32689) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

| | |
|-----------------------------|--------------------|
| 国際研究集会 日本と東アジアの 異文化交流文学史 | 開催年 2022年～2022年 |
|-----------------------------|--------------------|

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|